

おおえの

# 文化財だより

vol.1



おおえの文化財だより vol.1

- 大江町内の文化財紹介 町指定文化財 中の畑雷神社奉納御戸帳 59点
- 文化財保護の取組み 史跡 左沢樋山城跡の発掘調査 ●文化財保護トピックス (平成23年度の出来事を紹介しています)

## 町指定文化財 「巨海院山門」

左沢藩主酒井直次により、小漆川に築かれた城の門と伝えられています。建築年代は元和8年(1622)から寛永の初め、巨海院への移転は慶安元年(1648)と推定されています。



# 町指定文化財 中の畑雷神社奉納御戸帳 59点



中の畑雷神社 鳥居と山門



町指定文化財の「御戸帳」は、宝暦5年(1755)から明治期に、「中の畑雷神社」に奉納されたものです。七軒地域の重要な商品作物であった青苧あおぞの糸を使用して、地元で織ったと思われる布で作られています。

このように一つの神社に、長い年代にわたって地元製の布で作られた戸帳が奉納されていることは県内でも珍しく、大江町の産業と信仰の実態を伝える民俗資料・歴史資料として重要なものです。

そのため、中の畑雷神社の御戸帳47点は、昭和60年3月23日に町指定文化財となりました。同じ神社に残されていた12点も同等の価値があることがわかり、平成23年12月20日、追加指定となりました。

町では、貴重な「御戸帳」の保存と活用を図るため、平成21~24年度、東北芸術工科大学に委託して修理をおこなっています。

## 中の畑雷神社奉納御戸帳 年代／奉納者一覧

宝暦5年3月(1755) 当村 おつ□	寛政12年 当村 松田とり
宝暦5年3月	文化元年4月(1804) 当村 むせ□
宝暦5年3月 当村 おて□	文化2年切留□
宝暦10年4月 当村 長井四郎	文化3年佐藤おじゅん
宝暦11年3月 当村 おつた	文化6年くよ
宝暦11年9月 当村	文化7年3月当村 おつり
宝暦12年9月 当村	文化9年3月当村 おぶん
宝暦14年3月 おしゅん	文化11年3月とく
宝暦14年4月 当村 おきん	文化14年3月当村 おとみ
明和2年(1765)	文政5年3月(1822) 当村 おとみ
明和2年3月	文政6年3月当村 とみ
明和2年	文政8年3月当村 むめ
明和3年3月 当村 おしゅん	天保2年3月(1831) 当村 とく
明和6年3月 当村	天保7年3月当村 佐□□
明和6年3月 当村 おきよ	天保7年3月当村 さめ
明和7年3月	天保8年3月当村 千津
明和7年	天保12年3月佐藤□□吉
明和9年3月 当村	嘉永6年3月(1853) 当村
安永9年3月(1780)	安政3年3月(1856) 当村 さめ
安永10年3月 当村 前吉	明治2年11月(1869) 大谷村 きち
天明元年9月(1781) 当村 佐□茂兵衛	明治7年3月当村 志□
天明3年3月 当村 おこん	明治11年7月当村 見也
天明5年3月 当村 庄司七工衛内	(奉納年不明) 当村 むめ
天明7年3月 当村 おたつ	(奉納年不明) 庄司 志ん
天明7年5月 当村 □□工門内	(奉納年不明) おきよ
天明7年5月 当村 平助内	ほか年代不明2点、年代及び奉納者不明2点
寛政10年(1798) 当村	※大江町文化財保護委員会委員 渡辺正見委員記録「雷神社御戸帳年代一覧」(1981)を東北芸術工科大学保存修復研究センター・東洋絵画研究室及び同文化財保存修復学科 能登谷明佳による調査結果並びに、金山耕三氏、渡辺信氏の指導を受けて一部を追加・修正。
寛政10年3月 当村 おきん	※解読されていない文字は□で表記。
寛政10年 当村 平助内	
寛政11年3月 当村 おきん	



①「御戸帳」が奉納されていた雷神社の内部 ②七軒地区の特産物であった青苧、現在町内各地に自生している ③産物取調書上帳(明治5年、黒森村)青苧を産したことが記録されている(中の畑は黒森の枝郷だった) ④修理前の御戸帳 ⑤御戸帳の修理作業(東北芸術工科大学)



### .....中の畑雷神社奉納御戸帳.....





## 文化財保護の取組み

# 史跡 左沢楯山城跡の発掘調査

左沢楯山城は、大江氏の一族左沢元時により、南北朝期の正平年間(1346～68)に築城されたと伝えられています。最上川を直下に見下ろし、水陸交通の要衝を押さえる立地の城です。

これまで、平成5年～平成20年にかけて発掘調査がおこなわれ、掘立柱建物の跡や15～17世紀の中国・朝鮮産の陶磁器などが見つかりました。また、「堀切」や「曲輪」など、山城の地形が残っていることがわかっています。

平成21年2月12日には、「左沢氏とその一族、伊達氏、最上氏等との抗争を軸に展開した村山地方の中世から近世に至る動向を知るうえで貴重な城跡である」として、「楯山公園」を含む一帯、約24haが国の史跡に指定されました。

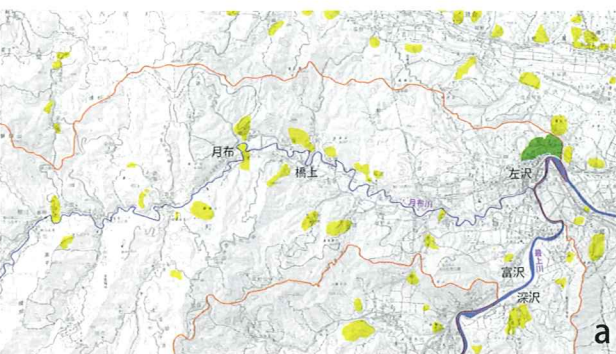
町では、史跡左沢楯山城跡を良好な状態で後世に残しながら、町の歴史を語る宝としての利活用を図るため、平成22年度から歴史学や考古学等の有識者による「史跡左沢楯山城跡保存整備検討委員会」を設置。ワークショップを通して町の方々の意見をうかがいながら、左沢楯山城跡保存整備の基本構想策定を進めています。

また、平成23年度から、城跡の保存整備を目的として発掘調査を再開しました。23年8月2日～31日に、城跡の中で最も標高が高い「八幡座」と、楯山公園北側の「蛇沢」で調査を実施。「八幡座」では2間四方の建物跡や多数の柱穴跡などが見つかりました。蛇沢では布堀と見られる溝跡などが見つかり、曲輪から蛇沢に道が続いていた可能性があります。調査成果は今後、保存整備に生かしていく予定です。

8月21日に開催した調査の現地説明会は、あいにくの雨模様でしたが、32名が参加し、発掘調査の成果を熱心に聞いていました。



①左沢楯山城跡航空写真、赤い線の範囲が国史跡指定地 ②蛇沢の調査区で見つかった布堀状の遺構(1T) ③ワークショップの様子 ④発掘調査の様子(八幡座) ⑤現地説明会の様子 ⑥「八幡座」で見つかった建物跡(岩盤に掘りこまれた穴が建物を構成する掘立柱の跡)



a 大江町では30カ所の中世城館跡が確認されている(図黄色部分が城館跡、緑が左沢楯山城跡) b 左沢楯山城跡の堀切(くぼんでいる地形の部分) c 左沢楯山城跡の縄張図、防御のための急な斜面「切岸」(図の■部分)で囲まれた平坦地(図の白い部分)、「曲輪」が楯山一帯に造成されている





# 平成 23 年度 大江町内文化財保護トピックス

## 御免町囃子座保存会が「山形ふるさと塾」村山地域優秀賞を受賞



御免町囃子座保存会

御免町囃子座保存会は、長年にわたる地道な活動により、子どもたちへの指導体制が確立され、演奏技術の確実な継承に努めていることなどが評価されて「山形ふるさと塾」村山地域優秀賞を受賞しました。

平成23年12月10日、村山市蕪葉プラザで表彰式がおこなわれました。

## 大江町文化財保護委員会の活動



羽黒薬師神社(顔好)調査の様子



羽黒薬師神社内部

文化財保護委員会は、町にとって重要な文化財の保存・活用等に関し、教育委員会の諮問に答えることや調査研究を行うために設置されています。平成23年度は御戸帳の追加指定に係る調査や町内の文書、建物などの調査をおこないました。

## 「大江町の文化的景観」調査と研修会の開催

大江町では、「大江町の自然・歴史・文化や人々の暮らしを踏まえた舟運文化薫る景観の調査及び保全を推進すること」を目的として、平成20年度から大江町文化的景観調査委員会を設置し、文化的景観の調査をおこなってきました。平成24年7月には、最上川舟運に根差した景観が、「重要文化的景観」として国の文化財に選定されるよう申出をおこなう予定です。

また昨年7月24日に、山形県と共催で「大江町の文化的景観を語る」研修会を開催しました。菊地和博氏と金山耕三氏の講演と、原町、内町・横町周辺で現地研修がおこなわれ、60名を越える方々にご参加いただきました。



## 小清地区の建物調査



小清の茅葺住宅

小清地区には多くの伝統的な茅葺の住宅建築があります。こうした本町の歴史ある建築物を記録するため、2件の茅葺住宅の実測調査をおこないました。

2階に大空間を設けるなど、養蚕による建物の改造が多く、近代以降、養蚕の発達によって生業が変化した歴史を語るものとして価値が高いことなどがわかりました。



長畑遺跡発掘調査の様子



長畑遺跡の位置と町内で見つかった縄文時代・旧石器時代の遺跡の分布

## 長畑遺跡発掘調査

長畑遺跡は柳川温泉の東側一帯で、縄文時代晩期(終りころ)の遺物が出土することが知られています。

平成23年8月29日から9月13日にかけて、東北芸術工科大学の福田正宏氏を中心として、同大学により長畑遺跡の性格を把握するため発掘調査がおこなわれました。

発掘調査では、柳川温泉駐車場の東側の畑で試掘(試し掘り)をおこない、「大洞 C1式」と呼ばれる縄文時代晩期中葉の土器や石器が見つかりました。

調査区内でまとまって見つかった土器の表面にはススが付いていました。当時、調理に使用された状態を残したまま埋まっていた可能性があり、長畑遺跡には2500年前から3000年前頃、人々が暮らした跡が残っているとみられます。

石器は、石匙や槍先などの道具や、割って道具を作った残りのかたまりとみられる石核などが見つかりました。遺跡の北側を流れる月布川は、石器の材料となる良質の頁岩が採れることで知られており、今回見つかった石器のほとんどが頁岩を材料として造られていました。

また今回の調査で、長畑遺跡では遺構(地面に残された竪穴住居などの痕跡)が埋まっている可能性が高いことがわかりました。そのため、今後も発掘調査が継続される予定です。遺跡を通して地域の昔の暮らしが明らかになることが期待されます。



調査区の様子。土の色の違いから、竪穴式住居跡などが見つかる可能性があるそうです。



見つかった石器や土器。中央の石器は石匙(つまみの付いたナイフ)です。

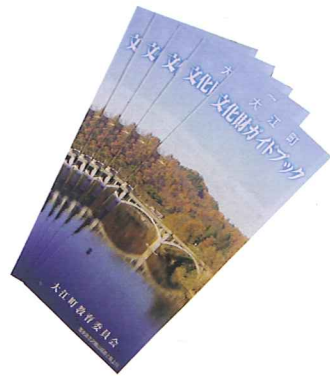


現地説明会の様子。地元の方などにご参加いただきました。



土器がまとまって出土しました。縄の模様が付いている中央の土器(深鉢)は、ススが付いています。





## 発行物のご案内

大江町「文化財ガイドブック」と「史跡左沢楯山城跡」リーフレット

大江町教育委員会では、「文化財ガイドブック」を発行しています。

大江町内には、歴史や文化を語る多くの文化財があります。文化財ガイドブックでは、これらの文化財の概要や写真とともに、その位置をマップで紹介しています。他に、左沢楯山城跡の特徴や魅力を紹介したリーフレットもございます。

大江町史関連刊行物

大江町の歴史を詳しくまとめた「大江町史」などを頒布しています。町の歴史に興味のある方におすすめです。

【お問い合わせ】 大江町教育委員会 教育文化課 歴史文化係

(大江町中央公民館) TEL: 0237-62-3666

書籍名／頒布価格

大江町史／6,300円

大江町史地誌編／2,625円

大江町史年表編／2,625円

大江町史近現代編／4,200円

大江町史近現代年表編／2,625円

大江町史資料

第1～19号 各1,000円

第14号 1,500円



## 文化財こぼれ話

「御戸帳」の素材となった青苧は、かつて、七軒地区の村々の特産物として取引されて、村々に富とゆたかな文化をもたらしました。またこれらの村々は、商業地であった左沢の繁栄には欠かせない存在でした。「御戸帳」が奉納された中の畑周辺にも、このような歴史を語る「モノ」が残されています。

黒森の「黒森八幡宮奉納掛額」(慶応元年)

黒森の八幡神社には、慶応元年(1865)8月15日の年号が入った掛額が奉納されています。額に書かれているのは連歌の一種である「前句寄」で、21名が詠んだ114句が書かれています。なかには「絹糸や青苧もともにうりきらす 春霞」という句があり、特産品であった青苧と養蚕(絹)の興隆がうかがえます。

作者21名のうち貫見1名、道海3名、十郎畑3名の7名が七軒地区の人として特定されています。七軒地区には他にも同様の額が複数伝えられており、青苧を産した山村の文化的な豊かさをあらわすものとして注目されます。



貫見の「川掘替碑」(安政2年)

七軒で産した特産物を出荷するなど、七軒と左沢の行き来には月布川沿いの「左沢市場道」(「湯殿山往来」)が必要でした。

江戸時代、貫見村と月布村の間では、月布川が大きく曲がる「へんぐり」の北側に道がありました。

この道が危険であることから、享保14年(1729)に「へんぐり」開削の願いが出されました。しかし貫見村は幕府領、月布村は左沢領であったことなどから、実現には時間がかかりました。完成したのは安政2年(1855)、貫見村丑吉が立岩を掘りぬいて、月布川の流路が真っすぐになりました。それを称える「川掘替碑」が、貫見の月布川沿いに建てられています。

